■特集　korekara 読者モニターの皆さんが挑戦！

やってみました！まちづくり活動

「興味のある何かがある、仲間がいる…。
それが、まちづくりにつながっていくんですね」

前回の「korekara」第9号では、読者モニターさんが、緑を育てている方を突撃取材。「まちに出かけて見たり聞いたりすることで、気づくことはたくさんある。声を出して伝え合っていくことが大切」だと感じました。

そこで今号は実際に、まちづくりの活動を続けているグループにお話をうかがうだけでなく、「メンバーといっしょに活動する」ことにチャレンジしてみました。はたして、読者モニターさんは何を感じたのでしょうか…。

korekara 読者モニターの皆さん

大西満樹子さん（写真左）
前号の取材に参加して、今までお会いする機会のない方に色々な話をうかがうことができてとてもよい経験になりました。そして、また違う方にも取材してみたいと思ったのです。

村山綾さん（写真中央）
初めてのこと、新鮮なことに触れるのが好き。興味の湧いたことは、とにかくやってみたいんです。家が西高の近くでもあるため、実際に見て、体験してみたいと思いました。

佐々木みつるさん（写真右）
もともと、見沼田圃（たんぼ）に興味がありました。なくなりつつある自然を保護する活動とはどのようなものなのか、ぜひ知りたかったのです。現場に行かないとわかりませんものね。

参加させていただいたのは…

「浦和西高斜面林友の会」

学校と市民が連携して、見沼の自然を再生・保全

▶代表者の中村克己さん。地道に、熱く、中身の濃い活動を行っています。

▲斜面林の面積は、幅20m長さ200mの4000㎡。四季の折々には、収穫祭、見沼プチ散歩なども開催しています。

埼玉県立浦和西高校の敷地内にある、見沼代用水西縁に面した斜面林の自然を、見沼田圃（たんぼ）が緑豊かだったころの雑木林に再生・保全をするため、学校と地域ボランティアが密接に連携して活動をしています。

活動は月１回。毎月第２土曜日の午前中に、植生調査、下草刈り、過密木の伐採、落ち葉拾いなどの作業をしています。

見沼田圃（たんぼ）の斜面林

見沼田圃は、首都近郊に約1260haという広大な面積を持つ、貴重な大規模緑地空間です。中央に芝川が流れ、その両側にたんぼと水を供給する見沼代用水、さらにその外側に斜面林が位置する、４身１体の構造になっています。

ただいま会員募集中！
ホームページURL http://members.jcom.home.ne.jp/o-gami/
E-mail shamenrin@urawanishi-h.spec.ed.jp

活動Photo

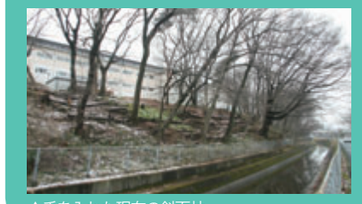
▲柔軟体操で体をほぐした後、作業が始まります。土留めや堆肥づくり、山野草の移植作業などについても説明を受けます。「下草刈りや清掃だけでなく、新しい命を守り育てる作業も大切なんですね」。

▲作業前には10分講座と打ち合わせを行います。◀「斜面林の活動により、相乗効果で学校全体の環境が良くなったと、学校を訪れる方から声をかけられています」と話す、西高の田部井校長先生。

こんなに変わりました！ 斜面林の今と昔

放置されていた斜面林はボウボウと樹木が生い茂り、下草も生えないほど日当たりが悪くなっていました。過密した樹木を間引いてゴミを取り除き、落ち葉の堆肥で土壌づくりをしたことで、乱雑な藪から「里山」へと生まれ変わったのです。

▲放置されていた平成15年の斜面林。ゴミがこんなにたくさん！



▲手を入れた現在の斜面林。

▲作業に必要な軍手や鎌、スコップなどの道具は、会が所有しています。

▲斜面は思った以上に傾斜がきつく、足場を固めながらの下草刈りです。「鎌を手にするのは初体験。大きな刃先に少しドキドキ！」。

自然と人をつなぐ里山は手を入れ続けることが大切

読者モニターさんが訪ねたのは、「浦和西高斜面林友の会」。西高の敷地内にある斜面林の、再生と保全を行っている地域ボランティアです。前号はまちづくりに携わっている方にお話をうかがいましたが、今号の目的は「実際に体験する」ことです。

参加したのは、前日に降った雪が残る寒い朝。この日の作業は、下草や笹の刈り取りです。メンバーの方とともに斜面林に出ると、丸太で作った階段や土留め、山野草の花壇などもあり、きれいに整っています。

「以前は荒れていて、樹木の伐採や廃棄物の回収といった力仕事が多かったんですよ」と代表の中村さん。数年にわたる地道な活動の結果、いろいろな種類の下草が生え、昆虫や両生類も増えてきたのだそうです。「里山は、人が手をかけて自然と畑、人の生活をつなぐために作ったもの。里山を残すためには、継続した作業が不可欠なのです」と話します。

← 作業は、まだまだ続きます！

会員の皆様に質問してみました！

活動に足を運ぶエネルギーは何ですか？

A 退職後HPで会を知り、参加しました。「地球規模での環境異変は、今手を打たなければ人間の力では止めることができない」という言葉が強く心に響いていたのです。仕事をしているときは寝に帰るだけのさいたまでしたが、今は、素晴らしい環境を実感しています。

入会5年の山崎和男さん▶

A とにかく会が、仲間が楽しい！ リタイア後の人生を考えたとき、私は鳥や植物という自然を相手にしようと思い、活動に参加しました。大げさなことではなく、年々増えていく山野草や自然の変化に興味が持てれば、活動は自然に続きます。

発足時から参加の梶田行男さん▶

会員を増やすために、されていることはありますか？

A 毎月発行している機関誌「どんぐり」を市民活動の拠点施設「さいたま市市民活動サポートセンター」に届けて紹介したり、西高の文化祭にも出展して参加を呼び掛けています。若い方にも、もっと参加していただければうれしいですね。

代表の中村克己さん▶

活動を継続していくためのコツは？

A 考え方はいろいろなので、フレキシブルに楽しく。皆が一市民として参加していますから、前歴は問いません。その中で知識や技術を持ち寄りながら、調和していくんです。

発足時から活動している大神國俊さん▶

継続のポイントはここと見た！

活動を支える開放講座での学び 周辺グループとも柔軟に連携

会の発足は、平成11年から西高で開かれている開放講座がきっかけです。地元である見沼田圃（たんぼ）の地理や生物、歴史などを学ぶ中で平成15年、講座の先生や受講生が中心となり、斜面林の再生と保全・育成の活動へと繋がっていったのです。毎回活動前には、雑木林についての10分講座を開講。活動内容や植生調査などを細かく記録した機関誌も発行しています。また、周辺の地域や市民グループに重複して参加している会員も多いことから、グループ同士の連携も広がっています。このように、地元に根付いた学習と連携が、活動を継続するエンジンになっているといえそうです。

▲開放講座では、現地に行って観察。荒廃する雑木林を見るうちに、「西高斜面林だけでも、地域のあるべき自然として残せないか」と考えるようになったのです。

▲見沼代用水西縁の遊歩道やフェンスの木柵化は、地元団体が県や市と連携した結果、実現しました。

▶通算88号にもなる、毎月発行の機関誌「実生（どんぐり）」。

▲きれいに整備するように刈り込むのではなく、伸びている下草や笹を大雑把に刈っていきます。

怪我のないよう、くれぐれも気をつけてください！

斜面林は自分の庭代わり。運動にもなって、楽しいですよ！

▲斜面林からは、見沼代用水と見沼田圃（たんぼ）が広がる雄大な景色が見えます。晴れた日には、男体山も見えるそうです。

▲右が西高校舎、斜面下は見沼代用水。会の方々は、斜面にも慣れたもの。それぞれの作業に散っていきます。

お疲れ様でした！

▲作業の後は、お汁粉をいただきながら、報告会と次回のテーマを話し合います。

斜面林に生えた草花を記録しています！

植物をスケッチ！

会では、斜面林に生えた植物や鳥、昆虫などを観察しています。中でも植物の記録は、斜面林内の配置図とスケッチがまとめられていて、一目瞭然！ 作品としても、美しいものに仕上がっています。

▲「植物の変わっていく様子がかわいいんです」と話す金巻秀子さん。

斜面林への愛情と活動の継続は好きなこと、仲間がいること

約1時間の作業を終えると、教室でミーティングが始まります。作業課題や、さいたま市と市民ネットワークが開催する「見沼たんぼクリーン大作戦」の打ち合わせ、山野草の成長や鳥の観察を報告し合います。

「活動に参加するエネルギーは何ですか？」とうかがうと、お子さんといっしょに参加している女性は「大げさなことではなく、この林が好きだから…」と話します。「植物が好き」「鳥が好き」「環境を守るために何かをしたい」「仲間と活動することが楽しい」など、それぞれが興味を持つ何かがあり、仲間がいる。そのようなシンプルな想いが、斜面林に愛情を注ぎ、活動を続けていく源になっているようです。「活動することで見沼を身近に感じ、まるでさいたまが故郷（ふるさと）であるかのような気持ちになるんです」と会員の大神さん。

爽やかな風が吹き抜ける、緑豊かな斜面林が楽しみです。

まちづくりの活動をやってみて…

「まちづくりは、楽しめることが一番！人ごとでなく自分のこととして捉えているから継続できるのだと思います」

実際に活動に参加して、読者モニターの皆さんは心に響く何かがあったようです。1年間の活動も振り返り、感想を話し合いました。

大西さん

●この活動に参加して…

静かに活動されていながらも、熱い気持ちがあることに感動しました。一歩踏み出すには勇気がいります。気軽にいろいろなことを体験し、参加できるような場があればいいなと思います。

●1年間やってみて…

モニター会議に参加していろいろな考え方があることがわかり、住んでいるまちや生活のことを考えるときに幅が広がってよかったです。広報誌も、今まで以上に読むようになりました。

村山さん

●この活動に参加して…

斜面林を人ごとでなく自分のこととして捉えているから、活動が続いているのだと思います。植物を観察している方のように、自分の得意なことを活かせる場があるのは、幸せなことですね。

●1年間やってみて…

面白そう！と興味に引かれて参加しましたが、まちづくりは楽しむことが一番で、そのためには自分たちに何ができるのかを日々考えていくことが大切だとわかり、勉強になりました。

佐々木さん

●この活動に参加して…

自然の大切さ、活動を続けていくことの大変さを実感しました。皆さんといっしょに汗を流すことで、斜面林への理解が深まり、雪の寒さが気にならないくらいの充実感がありました。

●1年間やってみて…

参加すること、皆で話し合うことが、まちづくりの重要なポイントになるのだとわかりました。自分の周りだけでなく、もっと他の区のことも知りたいと思う気持ちが湧いてきました。

千葉さん

●皆さんの報告を聞いて…

会の皆さんが、その場を好きだという気持ちがよく伝わってきました。それぞれが認め合い、緩く繋がっていくのが望ましい形だと思います。結局、今住んでいるところが故郷なんですね。

●1年間やってみて…

実際に活動してみた成果がわかる誌面になりました。視点を変えればいくらでも楽しいこと、新鮮になれるということがわかり、まちが身近に感じられる良いきっかけとなりました。

読者モニターさんと歩んだ1年 身近に思えてきた「まちづくり」

「まちづくり」について話し合い、現場を取材して、そして実際に体験して、その中で生じた気持ちの変化を、モニターさんの姿を通して読者の皆さんにも共感してもらうこと――これが今年度の「korekara」の大きなテーマでした。「そもそもまちづくりって？」からのスタートでしたが、さまざまな経験を通じて、最後には思い思いの「まちづくり」を語ってくれました。好きなこと、興味のあることに楽しんで取り組むことで、結果的にまちも良くなるのかもしれない。そんな気持ちで「まちづくり」を捉えると、ちょっと身近に思えてきて、そしてその思いが、参加への「きっかけ」になるものと感じています。

さいたま市が誕生してまもなく10周年。この「korekara」も、ちょうど10回目の発行となりました。これからも、読者の皆さんとともに、「まちのこれから、暮らしのこれから」を描いていければと思います。

まちづくりの制度や仕組みをこの1冊に込めました

「まちづくりのススメ korekara PLUS［コレカラ・プラス］」

「korekara」の姉妹版ができました！ 読むことで、活用することで、まちも暮らしも「プラス」になる、その名も「korekara＋（プラス）」。まちづくりのさまざまな制度や仕組みを分野別にわかりやすくまとめ、身近にあるまちづくりを考えるヒントとなる1冊です。各区役所や図書館、公民館などの公共施設で配布中。ぜひご覧ください！

きっと何かが見つかる！「さいたま市市民活動サポートセンター」

今回の「浦和西高斜面林友の会」への取材のきっかけは、モニターさん自らが市民活動サポートセンターのホームページへアクセスしたことでした。さまざまな市民活動の情報や、イベント・講座の開催案内など、皆さんの興味や関心に応じた活動の「始めの一歩」を後押しします。まずはお気軽にアクセスを！

▲「市民活動サポートセンター」は、浦和駅東口のコムナーレ9階。
http://www.saitamacity-support.jp/
TEL 048-813-6400